

令和7年度 川崎市学習状況調査 報告

目 次

第1章 川崎市学習状況調査の概要・・・3

I 調査の概要・・・4

- 1 調査の目的 2 調査の内容 3 調査の特色

II 育成を目指す資質・能力・・・10

- 1 かわさき教育プランから

第2章 カリキュラムセンター、分析委員会による分析・・・12

I 小学校の全市結果と分析、手立て・・・13

- 1 各教科の結果概要 2 小学校 国語科 3 小学校 算数科 4 小学校全般を通しての状況と授業改善のポイント
5 他教科等の分析と手立て

II 中学校の全市結果と分析、手立て・・・51

- 1 各教科の結果概要 2 中学校 国語科 3 中学校 社会科 4 中学校 数学科 5 中学校 理科 6 中学校 英語科
7 中学校全般を通しての状況と授業改善のポイント 8 他教科等の分析と手立て

III 学習意識調査の結果・・・117

- 1 学習の理解度 2 学習の好感度 3 学習への意識

IV 調査結果のまとめと手立て・・・127

- 1 調査結果の成果と課題 2 今後の手立て

V 結果の一覧・・・130

VI 今後の各種事業の取組について・・・214

- 1 研究会・研究部会の各事業 2 教育委員会の各事業

第3章 教育委員会事務局各部署による分析・・・225

I 政策推進・・・226

II 人権・多文化共生教育・・・234

III 情報・視聴覚センター・・・237

第4章 9月26日担当者説明会とモデル校の取組より・・・239

I 担当者説明会・・・240

II モデル校の事例・・・243

第1章 川崎市学習状況調査の概要

第1章 I 調査の概要

第1章 川崎市学習状況調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

- 児童生徒、保護者は**、学習の取組を振り返り、課題を的確に把握し、**学習改善に生かす。**
- 学校は**、学校教育目標等で示した資質・能力の育成に向けて、調査結果を分析し、個に応じた指導や学校(学年)での**授業改善、教育課程編成等に生かす。**
- 校長会、各研究(部)会は**、教育委員会と連携して全市的な結果の分析と授業改善の具体的な手立て、個に応じた**指導の手立て等を研究し**、説明会や各研究(部)会の事業等で**教員に伝達する。**
- 教育委員会は**、全市的な児童生徒の学習状況を**経年調査することにより**、学習状況を把握・分析し、**教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。**

2 調査の内容

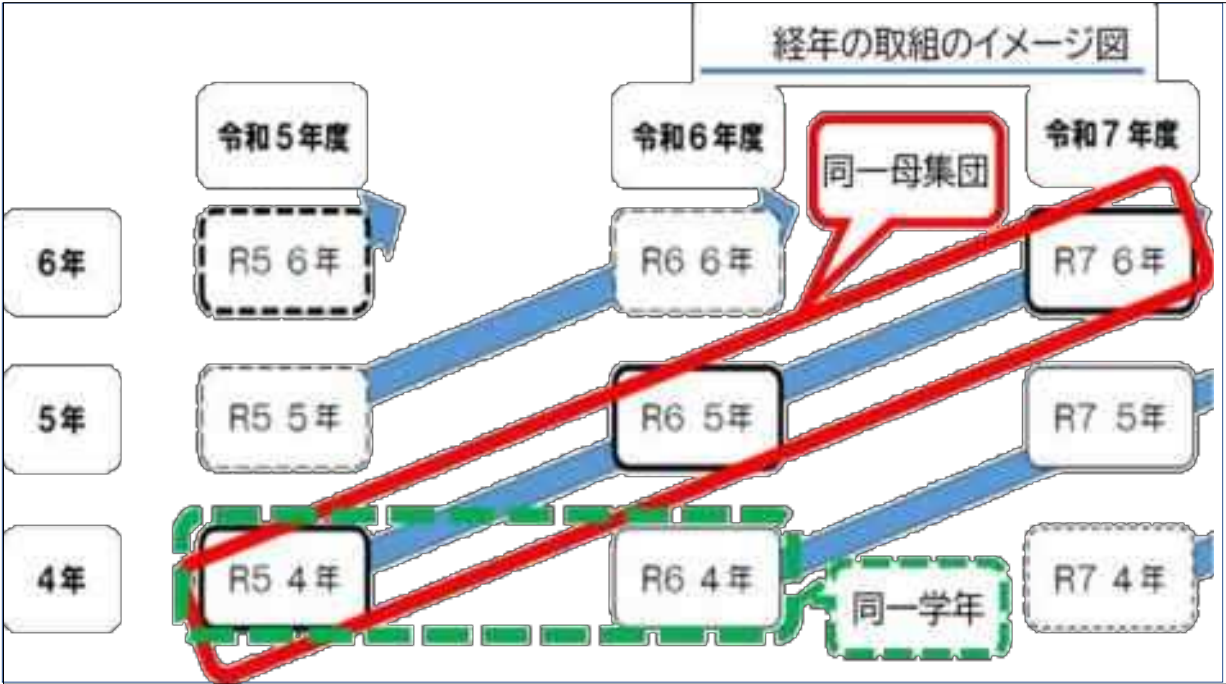
- 教科調査 小学校 国語・算数 中学校 国語・社会・数学・理科・英語
調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当な項目について調査を実施しました(前年度までの学習範囲)。
- 学習意識調査
児童生徒の学習や生活に対する意識等について明らかにするために、児童生徒を対象とする調査を実施しました。
- 調査の対象及び人数
市内全市立小学校の第4学年 11,802名、第5学年 11,850名、第6学年 11,600名
市内全市立中学校の第1学年 9,499名、第2学年 9,149名、第3学年 9,086名
- 調査実施期間 令和7年4月8日(火)～25日(金)

3 調査の特色

○IRTに基づく出題

川崎市学習状況調査では、小4から中3までの6学年に対象を拡充し、児童生徒一人ひとりや学年、学校の実態について経年で比較することが可能となります。これは、IRT(項目反応理論)に基づく調査問題で、毎年同学年で同程度の難易度となる新しい問題を作成するため、参加自治体全体と比較することで児童生徒一人ひとり、学年の過年度と比較しやすくなるからです。

例えば、令和5年度の小4の結果から授業改善や学習改善を図り、次年度に同一母集団である令和6年度の小5の結果を4年次と比較し、これまでの取組を振り返り、成果や課題を明確にして、更なる手立てを考えるなど、児童生徒一人ひとりや学年、学校の実態に応じた指導が行いやすくなります。また、令和5、6年度の小4のように同一学年の比較も可能です。調査結果については、各教科の結果と学習意識調査の結果について、**経年的に学習状況が「見える化」される**ので、学校や学年、児童生徒の実態に応じた手立てが、より行いやすくなります。



毎年異なる問題ではあるが、同一学年の平均正答率が毎年同等となるように設計したもの。例に挙げた小4は、ここ3年間の平均正答率が7割程度

例

例	R5 参加自治体全体 平均正答率	R6 参加自治体全体 平均正答率	R7 参加自治体全体 平均正答率
小4	70.0	71.6	68.9

○Webシステム(SYEN)について
Web分析システム「SYEN」からは、多様なデータを読み取ることができます。

- 示されるデータ例
- ・調査結果を出題形式や「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点別に集計したデータ
 - ・設問ごとの各正答率のデータ
 - ・各設問において全市の受検者の上位から25%ずつをA～D層の4層に分けたA～D層の正答率 など

川崎市学習状況調査の概要

調査対象	○小学校第4学年～中学校第3学年
調査教科	○小学校 国語・算数 学習意識調査 中学校 国語・社会・数学・理科・英語 学習意識調査
実施時期	○小中ともに4月始業式翌週の4月8日(火)～25日(金)のうち各学校が設定する。 学校の実態に応じて複数日での実施や学年ごとの実施なども考えられる。
作問・採点	○業者がIRT(項目反応理論)に基づく問題を作成し採点する。 →問題の難易度などについて事前調査を行い、検証を経て出題する。毎年新しい問題でありながら同学年で同程度の難易度となり、経年で比較・分析が可能になる。
学習意識調査	○業者が提供する、学習と相関の高い項目と、川崎市独自の項目として、自己肯定感や地域への愛情等の項目
配布資料等	○児童生徒に個人票、学校に学年票(ともに紙帳票)配布 ○個人の結果とGIGA端末の学習ソフトが連携
学校報告書	○これまでの学校報告書の取組を受け継ぎつつ、川崎市学習状況調査を中心に作成する。6学年(小学校は4・5・6年、中学校は1・2・3年)の結果を掲載し、それぞれの学年での取組、「(教科が)わかる」の数値を掲載する。併せて、全国学力・学習状況調査の結果(小6・中3)も該当学年で掲載する。

○GIGA端末との連携
調査結果のデータはGIGA端末内の学習ソフトと連携します。児童生徒一人ひとりの調査結果に応じて、**学習ソフトから児童生徒に適した問題が自動生成され**、学習改善に生かすことができるようになりました。

○分析方法について

・4層分析について

調査の目的の実現に向けて、より詳しい学力層別の傾向や状況を把握し、各層に適した支援や学習改善、授業改善に生かすために、4層分析を行っております。

教科調査は、川崎市内の受検者を、教科ごとに調査結果の高い者から並べ、意識調査は、小学校は2教科、中学校は5教科の合計点で並べ、上位からおおむね25%ずつをA～D層の4層に分けたものです。教科調査の数値はA～D層のそれぞれの平均正答率を示しています。意識調査の数値は肯定的な回答割合(「よくわかっている」「まあわかっている」等)を示しています。

各層の学習等に関するデータや各層間の差、同一母集団の経年変化などに着目して、取組の成果や課題を捉えていきます。

・表の見方について

【C-D層の差】

例. 4層分析 と C-D層間の差(小学校国語の平均正答率)

小 国語	川崎市学力層別				
	A層	B層	C層	D層	C-D差
R7・小4	96.7	86.7	74.2	44.7	29.5
R7・小5	90.6	76.4	62.2	40.1	22.1
R6・小4	90.0	76.5	63.2	38.3	24.9
R7・小6	91.8	80.5	67.8	44.7	23.1
R6・小5	86.4	71.5	57.9	36.4	21.5
R5・小4	93.2	82.3	70.4	44.7	25.7

令和7年度小学校6年生における
(C層の平均正答率)－(D層の平均正答率)
＝ 67.8 － 44.7
＝ 23.1

【経年比較】

例.【理解度】同一母集団の4層ごとの経年変化(小学校4教科平均)

年度・学年	学年の平均値	A層	B層	C層	D層
R7・小4	84.7	94.5	90.3	83.7	70.7
R7・小5	85.3	96.0	90.7	84.6	69.9
R6・小4	85.4	94.7	89.7	84.4	72.5
R7・小6	83.9	96.2	90.3	81.8	67.6
R6・小5	85.3	96.2	90.7	84.0	70.5
R5・小4	85.6	94.7	90.1	84.7	72.6

-2.6

令和7年度小学校5年生D層の前年度との経年比較(差)
 (令和7年度小5D層の肯定的回答率) - (令和6年度小4D層の肯定的回答率)
 = 69.9 - 72.5
 = -2.6

【全体(参加自治体全体)との比較】

例. 令和7年度小学校2教科平均正答率の全体との差

R7	2教科平均正答率		
	川崎	全体	差
小4	73.7	72.7	+1.0
小5	69.2	68.1	+1.1
小6	68.3	66.9	+1.4

令和7年度小学校6年生2教科平均正答率の全体との差
 (令和7年度市の6年生の2教科平均正答率)
 - (令和7年度全体の6年生の2教科平均正答率)
 = 68.3 - 66.9
 = +1.4

第1章 Ⅱ 育成を目指す資質・能力

Ⅱ 育成を目指す資質・能力

1 かわさき教育プランから

本市ではかわさき教育プランの基本政策Ⅱの「施策1」に学習状況に係る目標等が示されています。川崎市学習状況調査の結果を基に、プランで示されている資質・能力の育成に向け、授業改善や各種事業の改善に取り組んでいきます。カリキュラムセンターでは、各教科の分析を基に、複数の教科に関わる資質・能力の視点での授業改善の視点等をお示しします。

○かわさき教育プラン

基本理念 「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」

基本目標 「自主・自立」 変化の激しい社会の中で、誰もが多様な個性、能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことができるよう、将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うこと「共生・協働」個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高め合える社会をめざし、共生・協働の精神を育むこと

基本政策Ⅱ 学ぶ意欲を育て、「生きる力」を伸ばす

政策目標 子どもたちの学ぶ意欲を高め、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな心身」をバランスよく育み、将来の予測が難しい

社会を生き抜くために必要な「生きる力」を確実に身につけることをめざします。

施策1. 確かな学力の育成

「確かな学力」を育成するには、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」をバランスよく育み、主体的に学習に取り組む意欲を養うことが必要となります。

特に、川崎市学習状況調査では、学習状況の観点である「知識・技能」、「思考・判断・表現」に係る調査結果も示されますので、この2つの点を中心に、学習意識調査の結果も踏まえながら分析しました。

第2章 カリキュラムセンター、分析委員会 による分析

第2章 I 小学校の全市結果と分析、手立て

第2章 I 1 各教科の結果概要

I 小学校の全市結果と分析、手立て

1 各教科の結果概要(国語・算数) ※値は平均正答率(%)

○全体との比較(令和7年度の結果)

R7	2教科平均正答率		
	川崎	全体	差
小4	73.7	72.7	+1.0
小5	69.2	68.1	+1.1
小6	68.3	66.9	+1.4

R7	国語 平均正答率			算数 平均正答率		
	川崎	全体	差	川崎	全体	差
小4	75.6	74.0	+1.6	71.8	71.4	+0.4
小5	67.3	65.5	+1.8	71.1	70.7	+0.4
小6	71.2	70.6	+0.6	65.3	63.2	+2.1

川崎と全体の平均正答率を比較すると、本市の各教科、各学年は、全体より0.4から2.1ポイント上回っています。

平均正答率は、すべての学年、教科で参加自治体全体を回っている。

○同一母集団の経年比較(令和5年度から令和7年度)

小学校 2教科平均正答率

	川崎と全体の平均正答率の差		
	R5 小4	R6 小4	R7 小4
小6	+1.4	+1.1	+0.4
小5	+0.7		
小4	-0.6	+0.4	+1.6

川崎と全体の平均正答率の差を見ると、令和5年度の小4は全体より0.6ポイント下回っていたのが令和7年度には1.6ポイント上回っています。
次年度からは3年間の経年での結果が見られる母集団が増えていきます。

全体との差について同一母集団の経年変化を見ると、学年が上がるにつれて良くなっている。

○4層分析 と C-D層間の差

※「A層」「B層」「C層」「D層」の欄は平均正答率(%)を、「C-D差」の欄はC層とD層のポイントの差を表しています。

小 国語	川崎市学力層別				
	A層	B層	C層	D層	C-D差
R7・小4	96.7	86.7	74.2	44.7	29.5
R7・小5	90.6	76.4	62.2	40.1	22.1
R6・小4	90.0	76.5	63.2	38.3	24.9
R7・小6	91.8	80.5	67.8	44.7	23.1
R6・小5	86.4	71.5	57.9	36.4	21.5
R5・小4	93.2	82.3	70.4	44.7	25.7

小 算数	川崎市学力層別				
	A層	B層	C層	D層	C-D差
R7・小4	91.9	82.5	70.9	41.8	29.1
R7・小5	94.0	83.4	69.1	37.9	31.2
R6・小4	93.3	82.3	69.4	40.9	28.5
R7・小6	95.0	79.2	58.6	28.4	30.2
R6・小5	90.9	74.1	56.1	28.6	27.5
R5・小4	91.1	79.5	66.7	39.8	26.9

2教科 平均	川崎市学力層別				
	A層	B層	C層	D層	C-D差
R7・小4	94.3	84.6	72.6	43.3	29.3
R7・小5	92.3	79.9	65.7	39.0	26.7
R6・小4	91.7	79.4	66.3	39.6	26.7
R7・小6	93.4	79.9	63.2	36.6	26.6
R6・小5	88.7	72.8	57.0	32.5	24.5
R5・小4	92.2	80.9	68.6	42.3	26.3

層間の差 13.5 15.8 26.6

※令和7年度の小6は、A-B層間が13.5ポイント、B-C層間が15.8ポイントで、C-D層間の26.6ポイントが一番大きく開いている。

他の層間よりもC-D層間が大きく開いている。

【小学校の調査結果全体について】
平均正答率について、川崎と全体との差に着目すると、全教科、全学年で全体を上回りました。また、同一母集団の平均正答率を、同様に川崎と全体との差に着目して経年比較すると、学年が上がるごとに改善される結果でした。
4層分析の各層間の差に着目すると、どの学年もC-D層の差が最も大きく、引き続き、学習の際の疑問や関心について確認し、問題を解決していく授業の展開が大切です。

第2章 I 2 小学校 国語科

4年生

知識・技能の分析と授業づくりのアイデア例

【知識・技能】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小4	83.7	98.8	93.2	85.2	57.6	41.2

全体の正答率は83.7%です。正しいローマ字の表記を選ぶ問題で、D層の誤答や無解答率が高くなっています。3年生で学習したローマ字学習の定着を改めて確認する必要があります。

【大問5(1)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小4	69.0	97.4	81.8	62.6	33.8	63.6

本文の文中の「苦手」の「手」と同じ読みとなるものを選択する問題です。4層分析ではパターンⅢとなっており、D層の無解答率の高さも課題です。既習漢字の音読み・訓読みの両方の読み方や、前後の文脈から言葉の意味を捉える力が必要です。

【授業づくりのアイデア例】

漢字と語彙の力を高めるために

○漢字学習での例文づくり

漢字学習では、ただ暗記させるのではなく、意味と使い方をセットで理解させる指導が効果的です。「音読み」「訓読み」それぞれを用いた例文を書かせる活動などが考えられます。

教科書の巻末にある「これまでに習った漢字」の一覧から、既習漢字を使った「音読み」「訓読み」の例文づくりも考えられます。

○日常・他教科等での活用

日記や振り返りなどを書く場面では、わからない漢字について、漢字辞典を用いて、意味や使い方を自分で調べ、意識的に漢字を使うように指導します。漢字のもつ「意味で伝わるよさ」「文を短く簡潔にできるよさ」などを感じさせることで、日常の中でも既習漢字を積極的に使う習慣が身に付くようにします。

また、語彙の習得には、教室に語彙の掲示をして言語環境を整えることも、発言やスピーチ活動の際の手助けになり有効です。

【正答】

2



思考・判断・表現の分析と授業づくりのアイデア例

【思考・判断・表現】

4層分析の結果から、C-D層の差が30.8ポイント離れています(A-D層の差は58.8ポイント)。また、記述式の問題に対してのD層の無解答率が高い傾向にあります。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小4	70.5	95.3	82.5	67.3	36.5	58.8

【大問1(3)の正答率】

この問題は、「話し手の発表に対する質問の意図を選ぶ」問題です。「思考・判断・表現」問題の傾向と同様、C-D層に開きが見られます(25.2ポイント)。聞きたいことの中心を明確にして聞いたり質問の意図を理解したりすることができていない可能性があります。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層 の差
令和7年度・小4	70.4	96.6	80.4	64.6	39.4	57.2

【授業づくりのアイデア例】

聞きたいことの内容を明確にして聞くために

○目的をもって聞く

友達の話を聞く前に、聞いた後でわからない点や確かめたい点を質問する場があることを確認し、聞く構えをもたせます。

友達の話を聞いた後の交流を通して、「知りたかったことや尋ねたかったことを基にして、相手の話の内容を詳しく捉えることができたか」という視点で振り返ることで、聞きたいことの中心を明確にして聞くことを意識できます。

○日常・他教科等での工夫

日常的・継続的にスピーチ活動を行うことが、「話す・聞く」力を高めるためには効果的です。友達のスピーチに対して「何をもっと知りたいのか」を含めて質問し、聞きたいことの中心を明確にして聞くことを大切にします。

他教科等でも、問いをもった時に「どのような
目的で聞かのか」などを確かめて聞くことで、質
問の意図を言語化することになります。

(例) 友は、先生を聞いた。野村さんが、田中さんにしつこく問している場面です。野村さんはどのようなことを考えましたか? 聞きたと修正されますが、先生の「もう一つ」から、「一つだけだ、お質問紙の書きに」まで付け加えています。

田中さんにしつこく問います。どんなところから、うさぎの様子がおかしいと思われたのですか?

田中さんが話したことのうち、まず聞き取れなかった部分も、もう一度読んでみましょうとしています。
田中さんの様子やできごとをふまえて、たぶんについて、田中さんの考えを正確しく知ろうとしています。
田中さんの様子の途中でまだがついていないと感じたところについて、本場かどうかたしかめようとしています。
田中さんが話の中で少し聞いたことについて、自分の考えを確認し、その過程を書きこむようにしています。

【正答】

2

5年生

知識・技能の分析と授業づくりのアイデア例

【知識・技能】

全体の正答率は69.8%で、パターン判定はⅢです。特にD層にとっては、漢字を書くことや言葉と言葉の関係の理解に課題があります。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小5	69.8	92.5	79.0	65.7	42.0	50.5

【大問5(2)の正答率】

この問題は「およそ」が修飾している言葉を選ぶ問題です。D層は無解答率も高く、修飾と被修飾との関係を捉えられていません。低学年での主語と述語の関係についても振り返りながら、文の中の語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているのかを理解することが大切です。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小5	71.0	97.0	85.5	64.4	37.1	59.9

【正答】
1



【授業づくりのアイデア例】

相手にわかりやすく伝えるために

○低学年から学習を積み上げる

低学年の指導では主語と述語が照応することが大切です。中学年ではこのことについての理解を深め、修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾との関係にも気を付けて、文の構成を理解することが大切です。文章の内容を理解する場合だけでなく表現する場合にも、文がどのように組み立てられているのかを理解することが重要です。

○誰に向けて、何のために表現するのか

よりよい表現になるように相手や目的を意識して書いたり、推敲したりする活動を設定します。主述の関係、修飾と被修飾との関係に気を付け自分の文章を見直す必要性をもたせます。

○修飾語の例示を

修飾語を活用することで自分の思いや考えに合う表現に近づくことができます。修飾語の例示をし、自らが選択して主体的に活動していく支援の工夫が必要です。子ども自身が「書けた」という自信をもつ学習経験を増やしていきます。

思考・判断・表現の分析と授業づくりのアイデア例

【思考・判断・表現】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小5	65.3	89.1	74.2	59.2	38.5	50.6

4層分析ではパターンⅢ(C-D層の差が20.7)となっています。領域別にD層の正答率見ると、話すこと・聞くことでは60%を超えていますが、書くこと、読むことでは、30%を下回っています。

【大問4(3)の正答率】

この問題は「考え方の変化をまとめた文を書く」問題です。D層の正答率が10%を下回り、さらに無解答率はC層40.4%、D層70.8%となっています。記述式問題への苦手意識や条件に合わせて文を書くことに慣れていないことが考えられます。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小5	55.5	97.8	77.5	40.4	6.4	91.4

【正答】
どうでもよいものから、
じまんできるもの



【授業づくりのアイデア例】

登場人物の気持ちの変化を捉えるために

○学習課題の設定

物語全体を読んで捉えなければ解決できない学習課題を教師が設定します。指導事項に即して教材研究を行い、子どもが関心をもてる課題を考えることが重要です。

○複数の叙述を結びつける

叙述から、どのように気持ちが揺れ動いたのか、きっかけとなる出来事は何かを読み取ります。そして、複数の叙述を結び付けながら、気持ちがどのように変化しているのか想像します。高学年では、行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている心情を考えることも大切になります。

○一人読みと共有

一人読みで課題に迫った後、友達と読みを共有します。共有する中で、多様な読み方を学んだり、新たな視点で考えを広げたりします。その後、課題に沿って再読する時間を取るようにします。

○日常的に

国語の学習に限らず、キーワードを用いたり、字数を決めたりして考えを書いてまとめるなど、自分の考えを書くことを習慣化する必要があります。

6年生

知識・技能の分析と授業づくりのアイデア例

【知識・技能】

全体の正答率は71.0%で、A層とD層の差が41.5ポイントでした。特に漢字の書き取り問題では、無解答率がC-D層で高く、漢字の定着を改めて確認する必要があります。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小6	71.0	90.0	78.4	69.3	48.5	41.5

【大問5(2)の正答率】

熟語の構成について問う問題では、誤答の分析から、熟語の成り立ちについての理解が十分に定着していないことがうかがえます。特に、熟語には複数の構成があることを児童が理解していない可能性があり、それぞれの構成を意識した学習が求められます。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小6	35.7	61.8	39.3	24.5	17.3	44.5

【正答】

2

中略



中略



【授業づくりのアイデア例】

文字や言葉に興味をもつ授業づくり

○繰り返し学ぶ必要性

この題材は、2年「かん字の読み方」、3年「漢字の音と訓」、4年「じゅく語の意味」、5年「熟語の読み方」の学習を土台としています。6年生では、それらを踏まえて「熟語の成り立ち」を整理・体系化することが求められます。

○熟語の構成のグループを名付ける

児童の言葉で、熟語の構成のグループに名前を付け、親しみやすくします。「似たもの同士グループ」、「反対グループ」など、わかりやすい熟語から考えることで、D層の児童も取り組めるようにします。その上で、目的・材料(「花束」=花の束)、動作・目的(「登山」=山に登る)の熟語にも名前を付けていきます。また、熟語を分類し、名付ける活動を通して、熟語の構成の理解を深め、活用力の向上を図ります。

○学びを広げ、日常生活に生かす

難しい熟語でも、音訓読みの知識を活用することで意味を推測することができます。読書などで出合った知らない言葉に対しても、推測しながら読み進めることで、語彙を広げ、読みの深まりにもつなげることができます。

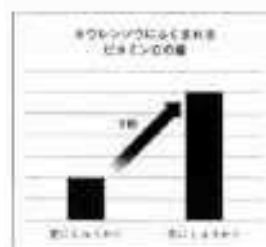
【思考・判断・表現】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小6	71.3	93.1	82.0	68.1	41.9	51.2

【大問5(3)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小6	42.5	82.6	48.5	29.3	9.4	73.2

資料 2



図表などを用いて自分の考えを伝えるために

身近な事柄や地域素材を生かした課題を設定し、目的意識や相手意識をもって自分事として取り組みめるようにします。総合的な学習の時間と関連させて書くことも考えられます。書いた文章と図表などがどう対応しているのか、友達と読み合いながら吟味することも大切です。

主体的に取り組む態度の分析とアイデア例

【質問内容】
友だちが書いた文章や話したことを参考にして、自分にはない新しい考えや自分とは違う考えを持とうとしている。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小4	86.8	91.1	90.3	87.3	77.6	13.5
令和7年度・小5	83.3	91.4	85.9	81.5	74.0	17.4
令和6年度・小4	85.9	92.0	89.0	85.1	76.0	16.0
令和7年度・小6	85.1	92.1	88.9	83.1	76.2	15.9
令和6年度・小5	85.0	91.7	87.1	84.4	76.3	15.4
令和5年度・小4	87.8	93.1	90.6	87.4	79.3	13.8

【分析結果】
昨年度と同様、80%以上の児童が、肯定的な回答をしています。友だちと考えを共有し、新しい考えや違う考えを受け入れることで、自分の成長につなげようとする意識が身についています。しかし、A-D層の差を見ると、どの学年も小4が一番ポイント差が少なく、学年が上がるにつれて少しずつA-D層の差が広がっていることがわかります。D層の児童が協働的な学びの中で、自己の成長を感じられるような授業を心掛けることが必要です。

【授業づくりのアイデア例】

自分にはない新しい考えや
自分とは違う考えを受け入れるために

○自分事として捉える
「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の単元では、総合的な学習の時間や日常活動と関連させることが大切です。児童にとって必要感のある題材を取り上げ、課題を設定することで、児童の主体性を引き出すことができます。また、「読むこと」の単元では、目的をもって読むための課題提示や、自ら解決したいという思いが膨らむ問いが生まれるようにすることが求められます。

○協働的な学びを通して
友だちと考えを共有する場では、相手の意見がわかる資料を手元に用意して話し合ったり、付箋にコメントを書いて渡したりする活動が考えられます。協働的な学びを通して、自分の考えを広げたりまとめたりする喜びが感じられるように工夫することが大切です。

意識調査の分析とアイデア例

【質問内容】

自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小4	69.4	79.3	72.3	67.1	58.9	20.4
令和7年度・小5	66.8	79.2	69.3	62.8	56.1	23.1
令和6年度・小4	69.5	79.4	72.1	66.5	59.9	19.5
令和7年度・小6	65.7	80.3	71.5	61.2	49.9	30.4
令和6年度・小5	67.0	79.7	69.7	63.5	55.2	24.5
令和5年度・小4	71.6	79.7	73.5	69.1	64.1	15.6

【分析結果】

質問番号45「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる」の調査結果から、どの学年もA層の肯定的な回答割合が80%近いのに対し、D層はA層より20%程度下回っていることがわかります。経年変化を見ると、C-D層の肯定的な回答割合が下がり、A-D層の差も小4から小6まで学年が上がるにつれ広がっています。このことから、自分の考えを適切に表現するための語彙の習得と、自分の意見や考えが明確に伝わるように話の構成を工夫することに課題があることがわかります。

【授業づくりのアイデア例】

相手を意識して
自分の意見や考えを伝えるために

○語彙の習得

語彙を習得するためには、たくさんの語彙と出合う必要があります。学習、会話、GIGA端末などの情報、身近な本からたくさんの言葉を集め、教室掲示や児童のノートなどに記録しておくの良いです。また、普段使っている言葉を違う言葉で言い換えたり、語句を調べたりする時間を確保することも大切です。一つの言葉から似た表現や関連する言葉を探すことで語彙の引き出しを増やし、言葉を広げることができます。

○話の中心や場面を意識して伝える力の育成

話の中心や場面を意識して自分の意見や考えを伝えるには、まず自分が伝えたいことを明確にすることが必要です。次に、それを支える理由や具体的に説明するための事例を考えます。最後に、話して良かった、伝わってよかったという達成感をもてるように支援することで、身に付いた力を肯定的に捉えることができるようになります。

第2章 I 3 小学校 算数科

4年生

知識・技能の分析と授業づくりのアイデア例

【知識・技能】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小4	79.7	97.0	90.2	80.8	50.9	46.1

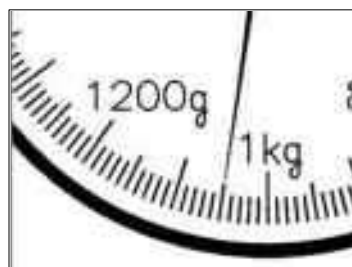
全体の正答率は79.7%で、パターン判定はⅢでした。特に次にあげる問題3(3)の正答率は、次の通りとなっており、正答にたどり着くことができないD層の児童が全体の約25%いました。

【問題3(3)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小4	63.8	93.0	76.2	60.3	2.5	67.5

このような結果となる要因として、はかりの針が1kgと1200gの間にあることから、まず、単位を揃えて数の大きさを捉えられていないことが考えられます。次に1目盛りが示す大きさを正しく求められていないことが考えられます。このことについて授業づくりのアイデア例を右側に掲載します。

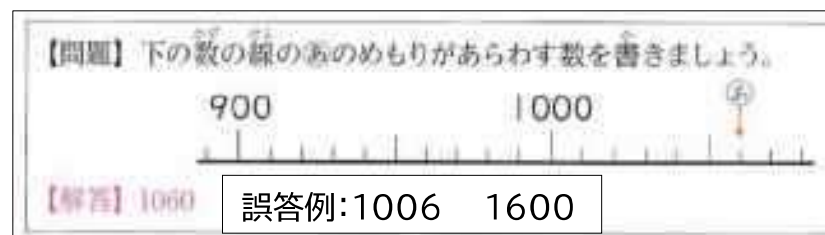
(3) 右のはかりで、はりのさしている重さは
何kg何gですか。



【授業づくりのアイデア例】

1目盛りがいくつかを考える

2年生の「1000より大きい数」で「数の線」(数直線)を活用して数の大きさや順序について考えることがあります。



教育出版 小学算数2下P.82

数直線は、十進位取り記数法に基づいた数の構成、大小、系列などを表すことができます。常に1目盛りがいくつかに着目することを意識して、下記のことを指導することが大切です。

- ①900と1000に注目する。
- ②900と1000の間の目盛りの数を数える。
- ③1目盛りがいくつかを考える。

はかりの針の読み方については、数直線を曲げて円形にしたものと捉えると、数直線と同様に上記の①～③を生かして読み取ることができます。

思考・判断・表現の分析と授業づくりのアイデア例

【思考・判断・表現】

全体の正答率は44.1%でパターン判定はⅢでした。特に次にあげる問題6(2)の正答率は5.7%で、A層にとっても正答にたどり着くことができない児童が約80%いました。また、D層においては、0%でした。

【問題6(2)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小4	44.1	74.2	55.6	36.2	10.2	64.0

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小4	5.7	18.7	3.4	0.7	0.0	18.7

このような結果となる要因として、基準量のいくつかとして全体量という見方・考え方に着目することが困難なことです。また、場面と式・言葉・図が結び付かず、解決する方法の見通しが立てられないことなどがあげられます。

このことについて授業づくりのアイデア例を次のページに掲載します。

たいきさんは、春休みに全部で32ページのドリルを4月5日までに終わらせようと計画を立てながら進めています。

3月

日	月	火	水	木	金	土
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

4月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12

たいき

ドリルは3月25日の今日からはじめよう。ドリルは全部で32ページあるから、1日4ページずつ進めていけばいいかな。

春休みドリル

(1) 3月25日からドリルを1日4ページずつ進めると、ドリルは何月何日に全ページ終わりますか。

(2) たいきさんは予定が入ってしまい、1日4ページずつ進めることができませんでした。4月2日までにできたドリルのページ数は12ページでした。

たいき

今日は4月3日だけど、4月5日までに全ページ終わらせたいな。今日から1日に進めるページ数を6ページずつにしたら、4月5日までに終わるかな。

たいきさんは、次のような計算をしました。

$20 \div 6 = 3 \text{ あまり } 2$

たいきさんの考え直した計画で進めた場合、4月5日までにドリルを終わらせることができますか。

かー! 答用紙の【できる・できない】のどちらかあてはまるほうを○でかこみ、その理由を上の計算の「」の3つの数をすべて使ってせつ明します。次の【理由】の書にあてはまる数と、④にあてはまる数と言葉をそれぞれ書きましょう。

【理由】

4月3日にのこっているドリルのページ数は 20 ページです。
1日に6ページずつ進めると 3日 からです。

【授業づくりのアイデア例】

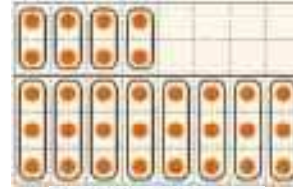
場面・式・図などと言葉を関連付けて考える

2年生の「かけ算の九九づくり」の単元で、同じ大きさのまとまりに着目し、基準量のいくつ分として全体量を求める場面があります。

牛にゆうは何本あるでしょうか。



教育出版 小学算数2下 P41



$$\begin{array}{l} 2 \times 4 = 8 \\ 3 \times 8 = 24 \\ 8 + 24 = 32 \\ \text{答え } 32 \end{array}$$

教育出版 小学算数2下 P42

右上のように、図の考えを式で、式の考えを図で説明するなど相互に関連付けたり、簡潔・明瞭・的確といった観点でよりよい方法を吟味したりする対話的な学びが大切です。このように、多様な考えを場面・式・図などと言葉を関連付けることで、同じ数のまとまりをつかって既習の九九を適用していることを捉え、解決する方法の見通しをもつことができます。また、身の回りから乗法の場面を見つけて言葉と式で表したり、乗法の式を読んでブロックやおはじきの具体物を操作したりするなど、表現を相互に結び付けることにより、実感を伴った理解が図れるようにすることが大切です。

【知識・技能】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小5	75.6	96.6	88.6	74.8	42.3	54.3

全体の正答率は75.6%で、パターン判定がⅢでした。問題3でのD層の正答率は、(1)が約6割、(2)が約5割なのに対し、(3)は約1割でした。このことから、わり算に苦手意識をもつ傾向が見られました。

【問題3(3)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小5	62.2	97.7	84.8	52.9	13.4	84.3

誤答分析では、無解答率が41.6%でした。要因としてはジュースの本数から代金を求めることができるが、逆に代金からジュースの本数を求めることに戸惑ってしまうようです。このことから、数量関係を多面的に捉えられる授業づくりが必要です。このことについて授業づくりのアイデア例を次のページに掲載します。

3 下の表は、1本140円のジュースを買うときの、本数と代金の関係を表したものです。あとの問題に答えましょう。ただし、消ひきはいは考えないものとします。

ジュースの本数(本)	1	2	3	4	...
代金(円)	140	280	420	560	...

(1) 上の表からわかることを、次の1～4から1つ選んで、かい答用紙の番号に○をつけましょう。

- 1 本数が1本ずつふえると、代金は1円ずつふえる。
- 2 本数が1本ふえると、いつも代金は2倍になる。
- 3 本数がふえても、代金は変わらない。
- 4 本数が1本ずつふえると、代金は140円ずつふえる。

(2) ジュースの本数を□本、代金を○円として、□と○の関係を式に表します。正しく式に表しているものを、次の1～4から1つ選んで、かい答用紙の番号に○をつけましょう。

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1 $140 + \square = \bigcirc$ | 2 $140 - \square = \bigcirc$ |
| 3 $140 \times \square = \bigcirc$ | 4 $140 \div \square = \bigcirc$ |

(3) 代金が2520円するとき、買ったジュースの本数は何本ですか。

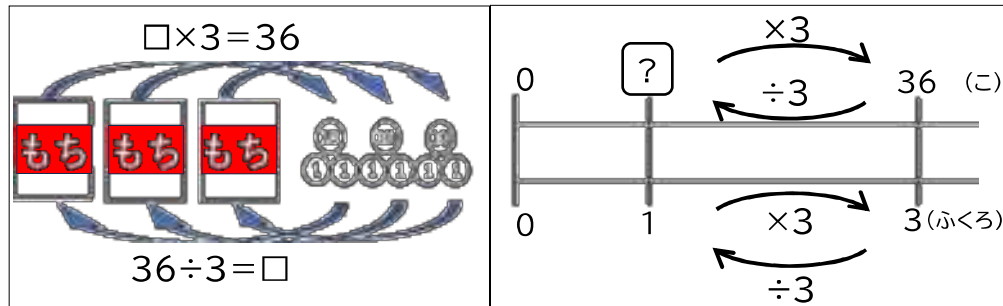
【授業づくりのアイデア例】

数量の関係を多面的に捉える

3年「□を使った式と図」で、図を用いて数量の関係を捉え、乗法と除法の相互関係について考えさせることが大切です。

おもちが同じ数ずつ入ったふくろが、3ふくろありました。おもちの数は全部で36こでした。この場面をお話にあわせて式に表しましょう。

教育出版 小学算数3下 P68



式) $\square \times 3 = 36$ $\longleftrightarrow$ $36 \div 3 = \square$

図と式と言葉を関連させながら話し合いを進め、乗法の逆算が除法であることを理解させる必要があります。課題の場面を数直線などの図で表し、立式する力や数量関係を多面的に捉える力を養っていくことが大切です。

思考・判断・表現の分析と授業づくりのアイデア例

【思考・判断・表現】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小5	54.7	84.6	64.3	48.0	22.0	62.6

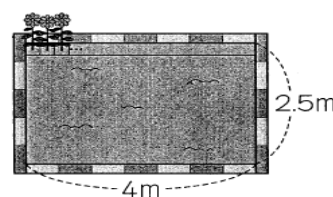
全体の正答率は、54.7%でパターン判定はⅢでした。特に次にあげる問題7(2)の正答率は、17.4%でパターン判定はⅠです。A層でも正解にたどり着くことができない児童が約半数でした。

【問題7(2)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小5	17.4	55.6	11.2	2.6	0.1	55.5

このような結果となる要因として、解法が何通りもある問題に対して、場面の把握ができていないことが挙げられます。図・式・言葉から具体的な場面を想像し、正しく把握する力が求められます。このことについて授業づくりのアイデアを右側に掲載します。

- 7 あきとさんとひなたさんの学校では、校庭にあるたて2.5m、横4mの長方形の花だんに花を植えることになりました。花は、1辺25cmの正方形の中に1こずつ植えます。2人は、花だんの面積や、花を全部で何こ植えることができるかを求めようとしています。



- (2) あきとさんは次のように考えて、植えることができる花の数から花だんの面積を求めました。

【あきとさんの求め方】

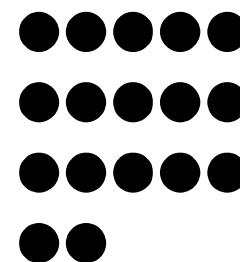
校庭の花だんに、花は全部で こ植えることができます。
1 この花を植える面積 625cm^2 を使って花だんの面積を求めると、
式は、 となり、花だんの面積は cm^2 です。

【あきとさんの求め方】の、㉞～㉜にあてはまる数や式を書きましょう。

【授業づくりのアイデア例】

図や式・言葉から場面を把握する

3年生「あまりのあるわり算」で教科書にある図を使って説明をする場面があります。次の図や式は、「ももが17こあり、それを1袋に5個ずつ入れると何袋にわけられるか」という課題に対する考え方を表したものです。



$5 \times 1 = 5$ 12こあまる。
 $5 \times 2 = 10$ 7こあまる。
 $5 \times 3 = 15$ 2こあまる。
 $5 \times 4 = 20$ 3こ足りない。

場面を把握する力をつけるためには、図や式から、解法を説明する活動が効果的です。自分で解法を考えるだけでなく、友だちが考えた図や式、言葉からいったいどのように考えたのかを読み取り、理解を深めることで、具体的な場面を想像し、正確に捉える力を伸ばすことが期待されます。

課題に対して問題解決に向かう思考の過程は多様であり、様々な解法について共通点やつながりを見いだしながら理解を深めていくことが大切です。

6年生

知識・技能の分析と授業づくりのアイデア例

【知識・技能】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小6	67.5	95.5	81.1	61.3	32.3	63.2

全体の正答率は67.5%で、パターン判定はⅢでした。特に次にあげる問題4(4)イの正答率は次の通りとなっており、B層でも正答にたどり着くことができない児童が約半数いました。

【問題4(4)イの正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小6	40.9	92.1	50.2	17.5	3.8	88.3

誤答の分析では、計算ミスだと思われるもの、目盛りに書かれている数字の意味を理解できず100%を100冊と捉えてしまうものなどがありました。これらの要因は100という数値を見た時、その数値が何を表しているのか考える経験が不十分だからだと考えられます。場面に応じて数の意味を捉え直すことが大切です。このことについて授業づくりのアイデア例を右側に掲載します。

(4) 右の円グラフは、学校の図書室にある本の種類を調べて、そのさつ数の割合を表したものです。このとき、次の問いに答えましょう。

イ 図かんは28 さつあります。図書室にある本は、全部で何さつですか。



【授業づくりのアイデア例】

図や式・言葉を使い、数値の意味を考える

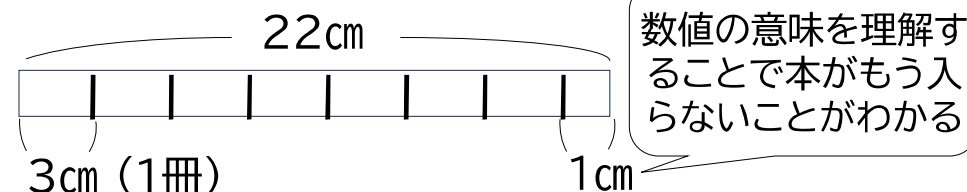
数値の意味の理解は、問題を読み解くときだけではなく、集団思考で互いの考えを理解し合うときにも大切にしたい考え方です。

次の問題は3年「あまりのあるわり算」の問題です。

教育出版 小学算数3上 P104

はばが22cmの本立てがあります。この本立てに、あつさ3cmの本を入れていきます。本は何さつ入るでしょうか。

この時、商とあまりを表す数の意味を問題場面に立ち返って図や式に言葉を加えながら理解を深めることが大切です。



また、5年「単位量あたりの大きさ」では、1㎡あたりにとれるじゃがいもの量なのか、1kgのじゃがいもがとれる面積なのか、図や式を読み取ることで数値の意味の把握をできるようにすることも重要です。

思考・判断・表現の分析と授業づくりのアイデア例

【思考・判断・表現】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小6	58.0	93.1	73.2	49.8	15.7	77.4

全体の正答率は58.0%でパターン判定はⅢでした。特に、次にあげる問題6(2)の正答率は30.0%となりパターン判定はⅠで、B層にとっても正答にたどり着くことができない児童が約7割いました。

【問題6(2)の正答率】

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小6	30.0	77.2	32.2	9.3	1.2	76.0

誤答の中で多かったものは、無解答と「1㎡」という言葉を用いた解答です。このような結果となる要因として、場面の把握ができておらず、式の意味を捉えられていないことが考えられます。このことについて授業づくりのアイデア例を次のページに掲載します。

6 みやびさんとりなさんの家の屋根には、かわらがあります。みやびさんとりなさんは、屋根のかわらのまい数とゆかの面積について話しています。



屋根のかわらのまい数は、屋根の面積と関係しているみたいだよ。屋根の面積を調べる方法はないかな。



屋根の面積は、家のゆかの面積の約1.2倍になるみたい。ここでは、1.2倍として考えてみよう。ゆかは、家の図の下の部分だよ。



(1) みやびさんの家のゆかの面積が93.5㎡のとき、みやびさんの家の屋根の面積は何㎡ですか。式と答えを書きましょう。

(2) りなさんは、自分の家の屋根にあるかわらのまい数を調べてみました。



屋根の面積1㎡あたり16まいのかわらが使われていて、わたしの家の屋根全体のかわらのまい数は1728まいだったよ。



屋根のかわら

下の式はりなさんが、自分の家のゆかの面積を求めようとしていると中までの式です。

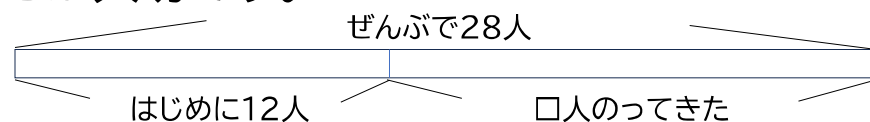
$$\begin{aligned} \text{〔式〕 } 1728 \div 16 &= 108 \\ 108 \div 1.2 & \end{aligned}$$

上の式の「108」が表しているものを答えましょう。また2つめの式で、108を「1.2でわって」ゆかの面積を求めようとしている理由を、「屋根の面積」と「ゆかの面積」という言葉を使って説明しましょう。

【授業づくりのアイデア例】

図や式・言葉から場面を把握する

まずは、場面を絵に表すことから始め、アレイ図→テープ図→線分図といったように、図の系統性を意識しながら場面を捉えられるように指導することが大切です。



2年生「図をつかって考えよう」では、問題場面の把握で児童がつまずくことが想定されます。加法と減法の相互関係を捉えるために、テープ図を用いて問題場面を把握します。文章だけで判断すると、立式を誤ることがあります。テープ図のどの部分が何を表しているのか、確認しながら学習を進めていくことが大切です。また、場面を式で表すことを通して、式が事柄や数量の関係を簡潔に表すものであるという理解を深めるようにする必要があります。

4年生「式と計算」では、式は計算の結果を求めるための手段だけではなく、思考の筋道を表現する手段としても用いられることに気付かせ、式の意味を理解し、そのよさを捉えられるようにしていきます。

主体的に取り組む態度の分析とアイデア例

【質問内容】

新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小4	85.7	93.7	90.3	84.8	73.1	20.6
令和7年度・小5	85.3	93.2	91.3	84.0	72.2	21.0
令和6年度・小4	85.8	92.5	90.3	85.0	74.0	18.5
令和7年度・小6	85.7	96.1	91.3	84.8	70.3	25.8
令和6年度・小5	86.2	95.0	91.1	85.6	72.4	22.6
令和5年度・小4	86.8	93.5	91.3	86.8	74.7	18.8

【分析結果】

この質問項目に対する肯定的回答割合は全て85%を超えており、他の項目と比較しても高い数値といえます。これは、川崎市の教師が既習事項を活用することを大切にしてきた成果といえます。しかし、同一母集団の3年間の経年比較に着目すると、若干ではありますが、学年が上がるにつれて数値が低くなっています。また、A-D層の差も学年が上がるにつれて広がっています。これは、学年が上がるにつれて学習内容が難しくなり、既習事項とのつながりがつかみ辛くなっていることなどが原因だと考えられます。

【授業づくりのアイデア例】

既習事項を活用する経験と価値づけ

未習事項の解決に向けて既習事項を想起する習慣を身に付けるためには、少しずつ成功体験を積むことが大切です。そのためには、日々の授業の中で自力思考に入る前に見通しを立てることが有効です。見通しには、どのような見方や考え方をすればよいか、どんな図や式などを用いればよいかなど様々あります。このとき、数学的な見方・考え方を意識させることが求められることから、教師が学習する単元で子どもたちに働かせる数学的な見方・考え方について深く理解しておくことが重要です。特にD層の子どもたちには、既習事項を活用できるようにノートや教科書、掲示等を確認する機会を設けたり、既習事項を活用する態度が身に付いている子どもから気付かせたりすることが有効だと考えられます。また、既習事項を活用したことを振り返らせ、価値付けを十分に行うことで、次の学習につながることを期待できます。

算数教育研究会の資料が閲覧できます。数学的な見方・考え方がわかりやすく掲載されています。



意識調査の分析とアイデア例

【質問内容】4年(84)5年(84)6年(87)

算数・数学の授業で文章や式、図や表などを組み合わせて自分の考えを説明したことがある。

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別				
		A層	B層	C層	D層	A-D層の差
令和7年度・小4	68.6	82.4	73.6	66.3	52.0	30.4
令和7年度・小5	67.9	83.8	75.9	63.9	48.0	35.8
令和6年度・小4	69.2	82.7	74.3	65.5	54.1	28.6
令和7年度・小6	69.3	89.0	78.6	64.2	45.9	43.1
令和6年度・小5	69.9	87.9	76.7	66.1	49.0	38.9
令和5年度・小4	71.7	83.9	76.9	69.3	56.6	27.3

【分析結果】

3学年ともに、全体の70%弱の児童が肯定的に回答しています。A-D層の差に着目すると30ポイント以上あり、学年が上がるにつれて広がっていることがわかります。また同一母集団の経年変化からも同様の傾向が見られ、令和5年度・小4と令和7年度・小6では、A-D層の差が27.3⇒43.1ポイントでした。これらのことから、学年が上がるにつれて、算数が苦手な児童ほど、自分の考えをもつことや、場面・図・式・言葉を関連付けながら自分の考えを説明することに難しさを感じていると考えられます。

【授業づくりのアイデア例】

場面・式・図などと言葉を関連付けて考える

低学年のうちから、場面と式、図、半具体物などを行き来しながら「この数はブロックのどの部わか」などを明確にし、数や図、半具体物がもつ意味を捉えさせることが大切です。また、具体物などの操作や、図と式を関連付けて言葉で説明することを習慣付けていきましょう。

中学年では、場面が複雑になりますが、場面と式や図などを関連付けて捉える指導がより大切になります。「この数は図のどの部わか」などと問い返し、丁寧に指導することが求められます。

高学年では、場面がより複雑になるとともに、問題解決の過程を表現することが難しくなります。特に、算数に苦手意識をもつ児童には、抽象的な図で表したり、説明を受けたりすることに課題があると感じます。どの表現だと理解できるのか、個に応じた柔軟な支援が大切です。

すべての学年において、ペア学習などを意図的に取り入れることも効果的です。振り返りに「図や式に表すよさ」が表現されていたら、十分に価値づけを行い、次の学習につなげていきましょう。

第2章 I

4 小学校全般を通しての状況と授業改善のポイント

4 小学校全般を通しての状況と授業改善のポイント

【状況】

- 知識・技能を習得する際に、学習内容を繰り返し行うだけでなく、他の学習内容に取り組む際に活用し、徐々に身に付けていくことが大切です。また、本質的な意味や導き出す方法について、思考することやアウトプットすることが必要です。
- 問題解決に向けて、与えられたいくつかの条件、状況を整理し、その内容に応じて、既習を想起させ「学習のつながり」を意識することが大切です。また、学習内において、自身の学習状況を理解し、自分に合った解決方法を見つけられるよう粘り強く取り組む態度を支援していくことが必要です。

【授業改善のポイント】

- 概念的な理解に向けて、言語や数量、図形、事象などの見方・考え方を働かせた言語活動の充実を図ることが大切です。
- 単元をデザインする際は、身に付けさせたい資質・能力を明確にすることが重要です。また、児童が主体的に取り組める学習場面を設定することが大切です。
- 教員は、児童同士をつなげる役割を十分理解し、授業に臨むことが必要です。そのために、学習が苦手な児童が何につまずいているのかを的確に把握し、問題解決につながる意見を取り上げ、学級全体で考えをつないでいくように授業を展開していくことが大切です。
- 授業でペア学習やグループ学習をする際は、「何について話すのか？」を明確に示すことが大切です。
- 習得した知識・技能を活用して問題解決を図る場を設定することが大切です。その際、「何故そうなるのだろう」「どのようにしたらよいのだろう」という問いを大切にすることが重要です。